



廿日市市教委だより

令和4年
3月18日
第12号



～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

令和3年度も残りわずかとなりました。この1年間は、どのような1年間でしたか？大変だったこともたくさんあったと思いますが、子ども達も先生方も笑顔で3学期最終日を迎えることができるよう願っています。

そして、短い春休みですが、少しでも心と体を休めて、また新たな気持ちで新学期をスタートさせましょう！

今回は、「令和3年度『ふるさと学習』発表会」と「大野中学校第2学年『志』の発表」について紹介します。



令和3年度「ふるさと学習」発表会

今年度の「ふるさと学習」発表会は、当初、はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ大ホールでの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を勘案し、Zoomでのオンライン開催に変更し実施しました。

全27校の中から、宮島小学校5年生及び中学校1年生が、「宮島の自然とともに～海の生き物から考えよう～」をテーマに、吉和中学校2年生が、「SDGsの視点から吉和の未来を考える」をテーマに、自校の「ふるさと学習」の取組について発表しました。

今年度は、松本廿日市市長、廿日市市教育委員会生田教育長、株式会社FMIはつかいち倉本局長に参加していただき、講評をいただきました。各校の取組が、市の施策、町づくり、学校教育施策、SDGs等にどう繋がり、どう生かされ、今後どう発展させていってほしいのか、児童生徒に向けて具体的に話をさせていただきました。児童生徒にとっては、**自身が取り組んだ事、物、時間、資料、思い等が未来へ繋がっていること**を実感できた発表会になったのではないのでしょうか。

本発表会を終えて、ふるさと学習の中で身に付けた「**自分事として考えることができる力**」や「**自分事として語る力**」が、「**自己を表現する力**」に繋がると感じており、来年度以降も、多くの学校に参加して欲しいと思っていますので、よろしくお願い致します。

※本発表会の様子については、後日、YouTubeにより廿日市内学校関係者、児童生徒、保護者へのみ限定公開する予定です。

※はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ市民ホールにおいて、令和4年3月16日(水)～令和4年3月19日(土)の期間、市内小・中学校(発表校は除く)による「ふるさと学習」の取組についての展示発表を行うとともに、オンライン発表会の録画映像を電子黒板で放映しています。



大野中学校 第2学年「志」の発表

令和4年3月7日(月)・8日(火)に大野中学校において、「志」の発表がありました。

この取組は、これまで実施していた立志式の取組を拡充させ、生徒一人ひとりが地域の方(大野地区の区長・大野町商工会青年部の方)の前で、スライドを用いながら、自分の長所や短所、将来の夢やなりたい大人の姿、そのために頑張っていることやこれから頑張りたいことを述べるというもので、令和5年度広島県公立高等学校入学者選抜において実施される「自己表現」にもつながるものです。

この取組は、「自己表現力」を身に付けさせるという点だけでなく、地域の方に生徒の心の成長を感じていただくという点においても、大変よい機会になっていると感じました。

また、一から取組を考えるのではなく、すでに実施していた立志式の実施方法等を見直し、工夫して取り組んだ点をぜひ参考にしたいと思います。



・大野のことを知らない人にも伝わる表現になるよう意識した。

・来年度の入学者選抜で行われる「自己表現」について見通しを持つことが出来た。

白井 ひなた さん

・色やフォントにこだわって作ったスライドについて、地域の方が分かりやすいと言ってくれて嬉しかった。自信を持つことが出来た。

廣瀬 陽 くん



・「自己表現」については、具体的なことがよく分からずイメージが持てなかったが、このような機会があることでイメージが沸き、とてもありがたかった。

松井 翠音 さん



目指せ！日本一の図書室！！

令和3年度の「目指せ！日本一の図書室！！プロジェクト」は、コロナ禍での作業となり、予定通りに進まないことも多くあったと思いますが、対象校8校において、子ども達、先生方、保護者や地域の方が協力して取り組み、素敵な図書室に生まれ変わりました。

野坂中学校では、リニューアル後（令和4年2月末時点）の貸出冊数が昨年度と比較して、700冊以上（一人あたり約2冊）増加したそうです。

学校と保護者・地域が協力して作り上げてこられたことに加え、学校における読書活動推進に向けた日々の取組の成果だと思えます。



〈宮園小学校〉キャスター付きの机にすることで、グループで調べ学習等の際、学習しやすい形に異動できる。



〈廿日市中学校〉1人用机を設置し、集中して読書をしたりDVD視聴をしたりできる。

廿日市小学校や平良小学校、四季が丘小学校の子ども達がお礼の手紙を書いてくれました。寄付して下さった方に、子ども達の思いを伝えることができました。



特別支援教育の視点に基づいた 学習指導と生徒指導

これまで広島県では、特別支援教育の充実に向け、学校からの要請に応じて、教員に対する支援や研修協力、特別支援教育等に関する相談・情報提供を行う、広島県立特別支援学校のセンター的機能が活用が推進されてきました。

例えば、次のような活用ができます。

◎巡回相談

- ・気になる子どもの授業参観や担任との面談をしてもらい、支援方法について考えていく。
- ・個別の指導計画や教育支援計画についての相談。

◎研修協力

- ・特別支援教育に関する校内研修会や特別支援学級の校内授業研究会に係る相談や講師の依頼。

◎来校相談

- ・小・中学校の教員が特別支援学校へ出向き、面談やより良い支援についての相談。

特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行ってみてはどうでしょうか。



教育のDX化に向けて

今後の取組をよりよくするためのアンケートに関わって

最近よく耳にする「DX（デジタルトランスフォーメーション）」ですが、廿日市市の対応の一部を紹介します。

◆デジタルを活用していくための機器を整備する！

平成28年度より電子黒板を導入してきました。令和2年度には、小学校の「外国語活動」「外国語科」に対応するための増設をし、令和3年度は、中学校に増設を行いました。来年度は、小学校低学年の通常学級に増設を行う予定に加え、一定の条件を満たす特別支援学級への整備を行います。

一人1台タブレット端末と連動させた視覚的支援を行うことで、子ども達の「分かる！」「できる！」につなげていけると良いと考えています。

◆学習者用デジタル教科書普及促進事業が始まります！

現在、各学校が整備しているデジタル教科書は「指導者用」です。これは、子ども達の一人1台タブレット端末へは投影できません。学習者用デジタル教科書はタブレット端末を使って子ども達がデジタル化された本文や付属している教材を使えるようになります。令和4年度は、中学校と小学校6年および5年の外国語科において対象の児童・生徒全員に国から配付される予定になっています。

◆学校と家庭の連絡ツールもデジタル化！

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、子ども達の欠席や検温結果など各ご家庭から学校へ連絡していただくことが増えていました。そこで、本市が導入している校務支援システムのメーカーがリリースする予定のアプリ（家庭との連絡ツール）を活用できないかと準備を行っているところです。詳しくは、来年度になってお知らせします。



先生方からアイデアをたくさんいただきました！他にも準備中のものもありますが、順次進めていきます。

従来通り、紙の教科書もあります。

